

訂正

「天気」43巻11号カラーページの参考文献の一部に以下のような印刷の不鮮明な部分が生じました。今後このような事態が生じないように、編集委員会事務局および印刷所においては、編集・校正作業になお一層の注意を払うようにいたします。

編集委員長

(訂正箇所)

4 頁右30行: and enviro n- → and environmen-

4 頁右31行: 197 22 → 197-222

編集後記: 最近の「天気」の論文等の図にはパソコンによる作図が増えてきました。見た目に美しく、修正も容易なため非常に好ましいことだと思います。しかしながら、意外な落とし穴があります。「天気」の通常のページは白黒印刷となっているため、等値線図などにはしばしばグレースケールの使用が生じます。しかし、プリンタに出力した段階の寸法と、天気に掲載される寸法が異なることが多いため、グレースケールがつぶれてしまって作者の意図が十分に伝わらないことがあるのです。著者の方々にはご面倒でも作り直しをお願いすることが度々ありました。こんな折、「天気」編集委員会あてに「毎月掲載されている気候情報のページの北半球月平均 500 hPa 高度の年間偏差の正負が判別し難いので、カラー印刷にしたらどうでしょうか」という趣旨の手紙を頂きました。残念ながら、編集委員会の意向としては気候情報のカラー化の予定はありません。ご指摘のとおり正負の差はデザインのパターンは違うものの、濃度がほぼ同様のために一見では判別できません。このため、わかりやすいよ

うに極大・極小の位置に符号が入っています。確かにカラー化によって表現力は格段に高まりますが、情報量が増えることはありません。こうした理由と、この図は気象庁気候・海洋気象部気候情報課によって制作されており、原図が白黒のため、カラーとするためには原図を作り直さなくてはならないこと。もう一つ、「天気」のカラー印刷はかなりのコストが必要なことです。「天気」編集委員会としては、限られた予算の中で、できる限りわかりやすく、美しい紙面をめざしております。著者の方々にも、掲載される時の寸法を考慮する、事前に掲載されそうな寸法に縮小してチェックする(原図は大きなサイズで提出してください)、微妙な階調表現を使用しないなど、作図の際にご注意願います。ときには、版下作成時に編集委員会の判断で、見やすくなるように作り直しをお願いすることもあります。分かりやすい図は本文に説得力を与えます。図表に頭を悩ますことも無駄ではないはずです。

(塚本尚樹)